

地区活動報告

米山奨学生研修旅行 IN 紀南

地区米山記念奨学委員会

学友小委員長 玉井 洋司

毎年米山記念奨学委員会では奨学生に対し地域の歴史文化を肌で体験し知っていただくために、研修旅行を実施しています。今年は8月31日・9月1日と米山記念奨学生の研修旅行を田辺市・串本町を訪れ実施いたしました。



31日、先ずは和歌山駅に集合し都市と農村の交流を目指したグリーンツーリズム施設秋津野ガルテンにて地元のお母さん方がつくるスローフードバイキング料理で昼食を取り、同敷地内にある体験工房にて草木染体験をしました。

その後田辺市内の博物学、民俗学の分野における近代日本の先駆者的存在であり、同時に植物学、特に「隠花植物」と呼ばれていた菌類・変形菌類・地衣類・蘚苔類・藻類の日本における初期の代表的な研究者である南方熊楠の資料を収蔵した南方熊楠顕彰館・南方熊楠旧居を訪問しました。当初田辺市内の街歩きをする予定でしたが雨天のため田辺市ボランティアガイドによる田辺市の解説していただき、宿泊先のホテルハーヴェスト南紀田辺へ向かいました途中ナショナルトラスト発祥の地天神崎に立ち寄りました。

9月1日は南紀熊野ジオパークの資料を集めた南紀熊野ジオパークセンターを見学しました。ジオパークはプレートの沈み込みに伴って生み出された3種類の大地、それらが作る独特の景観、温暖湿潤な気候がもたらす多種多様な動植物、そしてそこから生まれた熊野信仰、数多くの優れた自然や文化を体感でき、範囲は和歌山県の南部一帯に及びます。その後、串本ロータリークラブ矢倉会員に同行して頂き、潮岬、橋杭岩を訪れました。

この旅行で奨学生に2640地区内の自然と歴史の一部・奨学生同士の交流理解が少しは進んだと思います。

研修旅行には奨学生14名・米山学友学友3名・米山奨学委員7名・に米山記念奨学会前窪理事が参加しました。

